

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590900023		
法人名	有限会社プラントス		
事業所名	グループホームみさと		
所在地	秋田県鹿角市花輪字寺ノ後42番地10		
自己評価作成日	平成31年2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の方の重度化もあり、全体での活動が難しい場面も多く、その方に合ったレクリエーションが提供できるように、個別レクもっており、スタッフと1対1や2対2などの少人数で外出し、外食や買物などを積極的に行うようにしている。毎月、入居者様それぞれの担当スタッフがご家族様へ「みさと通信」(入居者様の近況報告のおてがみ)をかいて送付しており、喜んでいただいている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>全館オール電化で、快適に過ごせるよう管理されている。リビング・居室とも明るく、居心地の良い空間で、ユニット間の往来もスムーズにでき、連携・協力ができる体制ができている。外出支援では、担当の職員が利用者個々の希望を聞き、食事や買い物、ドライブ等その方にあった楽しみ方ができるような計画を立て、画一的なケアにならないよう支援している。設立当初からの職員が多いことで、馴れ合いによるケアの質の低下を招かないよう、利用者対応に関するアンケート調査を職員全員に行い、業務の振り返りに役立っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの状態にあわせた理念をスタッフで作成中である。	今も設立当初からの理念を掲げているが、新年度からは、ホームの現状に即したより具体的な内容に変更する予定。職員全員にアンケート用紙を配布し、新たな理念の作成に取り組む準備をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の面会や、隣接するデイサービスでの慰問行事にて、お知り合いの方と顔を合わせる機会がある。ホーム前の畑を作っている近隣住民より、季節の野菜をいただくこともある。	町内に居住している代表を通じて地域の情報を得ている。近隣の住民から野菜を頂いたり、会話をするなど場面はあるが、積極的な交流には至っていない。	近隣住民との交流が一部に限られていることから、今後は、ホーム行事への参加等を通じて、気軽に立ち寄ってもらえるような声掛けを積極的に行っていくことで、地域の一員としての交流が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議では地域の方の参加もあり、その際はホームの様子をみていただいたり、状況をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しており、市職員や地域代表の方と意見交換をして、サービスに取り入れられるようにしている。	会議では運営状況、事故報告、行事報告などを行い、情報の共有や意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議に市職員に毎回出席していただいている。	運営推進会議に市の担当者が毎回出席している他、生活保護担当者に状況報告や関係書類を届けたり、担当者が来訪するなど互いの協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を行って周知したり、コールマットやセンサーマットを準備しており、状態によっては利用させていただき、拘束は行わない介護を実践している。	身体拘束の事例はない。転倒のリスクが高い方には福祉用具であるコールマットやセンサーマットを活用し、離床のタイミングを把握することで拘束を行わない介護を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い、どのような行為が虐待にあたるのか具体的にわかるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている入居者様も数名おり、今後も必要があれば活用できるように連携をはかっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居者様やご家族様と一緒に契約書や重要事項説明書に目を通し、サインをいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話から意見や要望が得られるように声がけするようにしている。遠方のご家族様へは手紙のやりとりをすることもある。	「相談・苦情受付シート」を活用し、利用者や家族の意見や要望を真摯に受け止め、業務に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議にて意見交換できるように配慮している。	毎月各ユニット毎に開催される会議では、職員が忌憚のない意見を出し合うことができている。異動に関する要望は管理者が職員と個別に面談する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内キャリアパス制度を設けており、キャリア給や役職手当などで給与に反映されるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修にも参加してもらうように配慮したり、必要があれば休みがとれるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、市内のグループホーム連絡会議があり、管理者やケアマネが集まる機会があり、参加し意見交換できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との面談のほか、ご家族や居宅ケアマネさんと連携し、状況や要望を把握できるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族様とお会いし、様々な会話の中から要望が得られるように配慮している。			
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事やお茶の時間を共にしたり、一緒に活動できる時間があるようにしている。			
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に受診の協力を得たり、家人対応の時でも要望に応じてスタッフも同行している。月1回のみさと通信では入居者様の状況が伝えられるようにしている。			
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医を継続したり、親戚の方、ご友人の方の面会があったりしている。	個別の要望に応じてスーパーやラーメン店、道の駅などに出掛けている。来訪の理美容を利用する方もいるが、馴染みの店に家族や職員の支援で出かける方もおり、希望に応じた支援ができる体制が整っている。		
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにおいての座席を調整したり、ユニット間も散歩などで行き来し声を掛け合う様子がみられる。			
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援させていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人様の意向が汲めるように声かけを配慮したり、関わられるようにしている。	連絡ノートやケース記録、ユニット会議等で情報を共有し、利用者個々の思いや意向の把握に努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や居宅ケアマネさんより伺ったり、日々の会話から把握できるようにしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のチャート記入や月1回のユニット会議にてスタッフ皆が把握できるようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様との会話の中で意見を聞けるようにしている。また、月1回のユニット会議にてスタッフ皆で意見交換をしたり状況を把握できるようにしている。	日常の支援の中で利用者の意見や要望を聞き取る他、毎月のユニット会議でカンファレンスを行い、職員から出された意見を介護計画に反映させている。家族からは面会や電話連絡の際に意見や要望をうかがい、プランに反映させている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別チャートへの記入、朝晩の引継ぎ時に送りしたり、スタッフ間の連絡ノートを用いて情報を共有できるようにしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様や親戚の方などの面会はいつでも行えるようにしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続して受診している。薬局はホームからのFAXにて配達をお願いしているところがあり、頻りに顔を合わせたり、問い合わせのやりとりをしている。	入居前のかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。定期の通院支援を依頼された場合は、本人・家族の了解を得て有料としている。かかりつけの薬局とは、頻りに顔を合わせたり、電話で問い合わせをする等良好な関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職の配置はないが、隣接するデイサービス看護師に相談することがある。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、医師からの説明時にはご家族様の同意を得て同席させていただいたりしている。入院生活に家人が対応できない時は、ホームのスタッフが洗濯物や必要物品を届けるなどの支援もを行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明をしたり、相談があった都度や、入居者様の状況に変化があった時などに、再度説明をして、他施設への申込みを行ったりしている。	入居時の説明で、重度化や終末期の対応には限界があることを理解していただき、他施設等への移行支援を行っている。今年度も特別養護老人ホームへの入所や医療機関への入院につなげている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車の手配については各ユニットに掲示している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回夜間想定避難訓練は行っている。水害に対応した避難訓練を行ったことがあるが、本年度は未実施である。	年2回、夜間想定避難訓練を実施している。ホーム内に備蓄品が保管され、担当者が賞味期限などを随時確認し、入れ替えを行っている。	近隣住民がホームに気軽に足を運んでくれるような試みを普段から積極的に行い、地域との協力体制が築かれることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄については特に配慮するようにし、タイミングや声がけを工夫するようにしている。	利用者への対応について職員にアンケート調査を行い、業務の振り返りを行うよう努めている。馴れ合いによるケアの質の低下を招かないよう言葉遣いには特に注意している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のかかわりや様子の中で、気持ちをはかたり、自己決定を促せるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして一定の決まったメニューはあるものの、お一人お一人に柔軟に対応できるようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新たに衣類を購入するときなどは、その方の好みそうなものを選ぶようにしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時の片づけを一緒に行ったり、季節のものを作って食べるような行事を企画したりしている。	普段の食事準備や片づけは難しくなっているが、利用者が一緒にできるような行事食を工夫したり、山菜の処理を手伝ってもらうなど、個々にできることを活かせるような場面づくりをしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の摂取が、誰でも把握しやすいように記入している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせた排泄の間隔で誘導を行ったり、日中のみトイレを使用するようにしたり、お一人お一人に合わせて介助を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導を行っている。入居後、紙パンツから布の下着を着用するようになった方もおり、排泄の自立に向けた支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や歩行などの運動を促したり、かかりつけ医と相談しながら、内服薬の調整を行うようしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望や、タイミングをみながら、週に最低2回は入浴していただけるようになっている。	利用者の希望やタイミング、健康状態に合わせ、週2回程度の入浴支援を行っている。 ホームの浴室給湯機修理の際、近くの温泉施設を利用し、とても喜ばれていた。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に休んでいただいたり、様子をみながら休息を促したりしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をチャートや薬箱に添付するなどして、スタッフが把握できるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯物たたみなどを無理なくやっていたり、新聞の定期購読やヤクルトの配達などを個人的に利用していただいたりしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当のスタッフが個別のレクリエーションを計画して、その人にあった楽しみ方ができるようにしている。	利用者個々の希望を聞き、食事や買い物、ドライブなどの外出支援を行っている。担当の職員が個別に聞き取りし、その方にあった楽しみ方ができるよう外出計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布や現金をお持ちの方もおるが、事務室にておこづかいをお預かりして、希望のものや必要品を都度購入できるようにしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。年末にはレクリエーションの一環で、ご家族様に年賀状を作成して送付している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットから中庭をみることができ、季節や天気を感じることができる。また、壁面や飾りつけで季節の変化をつけるようにしている。	全館オール電化で、快適に過ごせるよう管理されている。除菌電解水給水装置を導入し、効果的な殺菌・消臭を行っている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、畳の小上がりなどで、リビングの中でも他の空間ができるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご自宅で使い慣れたものや大事なものを自由にお持ちいただいている。写真やご家族様からの手紙などを居室壁面に自由に飾っていただいている。	クローゼット、ベッドは備品として設置されている。テレビや椅子、位牌を置いたり、家族の写真や手紙を壁に飾ることで、本人が居心地よく安心して過ごせるようにしている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に合わせて、目印をつけさせていただいたりしている。		